

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

平成30年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立上谷小学校
実施日	平成31年1月16日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・校長先生の教育方針を基に、教職員の共通理解を図っている。 ・特色ある学校を築くために、教職員が計画的に進めている。	B	・縦割り教育(遊び・清掃)は、とても良い取組だと思います。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・年間を通して学校での大きな事故が起きていないのは、普段から事故を起こさないように教職員が意識しているからとらえている。 ・学校事故・災害への対応については、組織的に取り組んでいる。	A	・不登校児への対応など、教職員の間で連携がとられている様なので、今後も継続していただきたいと思います。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・繁忙期は、残業時間が長くなってしまうが、普段から時間を意識して仕事ができるようになりつつある。 ・今後も効率のよい勤務体制の実施により、教職員の勤務時間短縮を目指していく。	B	・難しい状況の中、勤務時間の短縮への努力が感じられました。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	・校内研修で、各時間の学習課題とまとめの設定、児童の発表や学び合いの仕方などの指導方法を教員間で共通理解し、日々の授業実践に生かしている。	A	・学力調査の平均が県や全国より低い結果となっているが、体力面などで本校の良い面を公表してほしい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・「特別の教科 道徳」の学習を通じて、児童に豊かな心を育むために教え方を学んでいる。	B	・音楽会では、学年に応じて成長が見られた。 ・子供の一生懸命さが伝わってきた。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・ノーチャイムでの生活にも慣れてきて、児童は落ち着いた生活を行っている。 ・挨拶については担任だけでなく、他の教師や地域の方に対してもできるとよい。	B	・来校した時に、子供が必ず挨拶してくれるので、感心しています。 ・挨拶についてよくできる児童とそうでない児童の差があると感じます。学校の指導、教育だけでなく、家庭での教育も大切かと感じます。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・計画的に倫理確立委員会を実施し、具体的な事例に基づいて教職員への啓発を行っている。	A	・言葉の暴力もあるので、今後も気をつけていってほしい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にできる態度で接している。	A	・児童一人一人の思いを大切にしながら、個に応じた指導や学び合い学習など、能力向上に取り組んでいる。	A	・一人一人を大切にとは言っても簡単なことではありませんので、是非これからもよろしくお願いします。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・さくら学級の新設で、特別支援教育の充実がさらに重要となってきている。来年度も充実した特別支援教育が行えるように、全教職員で共通理解を図り、一人一人の能力向上に努める。	B	・全職員の共通理解が最も需要と思います。さらに充実していくよう努めていただきたいと思います。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・計画的に施設や設備の安全点検を実施しており、教育活動における児童の事故を未然に防いでいる。	A	・児童が事故や怪我に巻き込まれないためにも、安全点検は必要だと思います。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・計画的な授業参観や学校行事の開催によって、児童の学習状況や生活態度などを保護者の方に知らせている。 ・今後も学習の成果を地域や家庭に公開し、児童の学習意欲の向上につなげていく。	A	・学校から帰った後の自転車の乗り方が心配なので、これからも注意してほしい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・保護者だけに限らず、地域の方や外部人材を積極的に活用していき、地域に根差した学習を今後も実践していく。	A	・田植えや稲刈りは、子供にとってよい体験だと思います。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・小中連絡会にて、学校間での学習指導や生活指導での連携や情報共有を実施し、課題解決に努めている。 ・スタディーウィークだけに限らず、東部4校でさらなる学習の連携が図れるように今後も模索していく。	B	・「3デイチャレンジ」にて、中学生が小学校の児童をサポートしたり、先生の仕事をフォローしたりする経験は、とても貴重な経験だと思います。今後も継続できたらよいと思います。